

Mercury Outboard

取扱説明書



目次

一般事項	P. 4
操縦者の責任	P. 4
船外機を運転する前に	P. 4
ボート搭載出力	P. 5
水中にいる人々の保護	P. 6
非常停止スイッチ（ランヤードストップスイッチ）	P. 7
各部の名称	P. 10
仕様諸元	P. 11
取付け	P. 12
船外機の取付け	P. 12
フュエルとオイル	P. 13
フュエル	P. 13
慣らし運転手順	P. 13
ガソリン/オイルの混合比	P. 14
混合手順	P. 14
ポータブルフュエルタンクの取扱いについて	P. 15
運転	P. 17
始動前の手順	P. 17
始動手順	P. 18
リコイルスターターが故障した場合	P. 19
暖機運転	P. 20
シフトレバーの操作	P. 21
チルトアップ/ダウン	P. 22
浅瀬航走	P. 23

目 次

調整	P.	24
トリム調整	P.	24
ステアリングの重さ調整	P.	25
船外機の取外しと運搬	P.	26
船外機の取外しと運搬	P.	26
ボートトレーラーによる船外機の運搬	P.	26
メンテナンス（日常点検）	P.	27
各部点検	P.	27
洗浄	P.	29
プロペラの交換	P.	30
スパークプラグの交換	P.	31
アノードの交換	P.	31
メンテナンス（定期点検）	P.	32
点検チャート	P.	32
ギアオイルの交換	P.	33
フュエルフィルタの清掃／交換	P.	35
メンテナンス（長期格納）	P.	36
船外機の格納	P.	36
バッテリー及びスターターモーターの格納	P.	36
メンテナンス（その他）	P.	37
水に沈んだ船外機	P.	37
寒冷時における係留	P.	37
トラブルシューティング	P.	38
付属品	P.	40

目 次

プロペラ一覧表	P. 41
配線図	P. 42

本書の記載項目と仕様は印刷の時点で有効であるものです。マーキュリーマリンは限りない改善を方針のひとつとしており、いつでも機種^①の製造中止や、仕様、設計、方法、手順を予定なく、義務を負うことなく変更する権利を保有します。

一般事項

操縦者の責任

操縦者はボートの正確かつ安全な操作、装備、及び全乗員の安全に対して責任があります。操縦者には、ボートの使用前にこの取扱説明書にしたがって、船外機、及び関連機器操作上の指示を十分理解していただくよう要望します。操縦者がボートの操船ができなくなった場合に備えて、少なくとも同乗のもう一人が船外機の始動とボート操作の基本を知っていることを確認します。

船外機を運転する前に

船外機を運転する前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき船外機を正しく運転する方法を覚えてください。ご質問がある場合は、販売店にお問合せください。船外機を運転するに当たっては、これらの特別の指示を厳守すると共に、常識を働かせた使い方をすることが大事故を防止する最善の方法であることは言うまでもありません。

この取扱説明書は船外機に取付けられた安全ラベルと同様に、特定のサービス、又は操作上で、不正確、或いは不注意にこれを行うと危険である項目について、取付けを行う人、及び使用する人の注意を喚起するために、表記してあります。これらの内容には十分注意してください。

危険
危険-大怪我をしたり、或いは死に至るような危険性の高い不安全な行為。

警告
警告-大怪我をしたり、或いは死に至るようなこともあり得る危険、又は不安全な行為。

注意
注意-怪我をしたり、製品、又は設備に損傷を与えるような危険、又は不安全な行為。

一般事項

ボート搭載出力

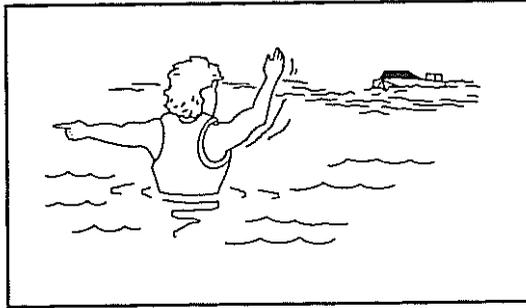
ほとんどのボートには、国の規則に従って、メーカーによって決定される許容最大出力と定員を示す容量プレートが表示されています。過大な出力のエンジンを搭載したり、ボートに過積載してはいけません。疑問がある場合は販売店、又はボートメーカーにお問合せください。

警告

ボートの許容最大出力の限界を超えて使用すると、以下のような現象が起こりません。

1. ボートのコントロールができなくなる。
2. トランサムに過大な重量を載せると、ボートの設計浮力特性が変化します。
3. 特にトランサム周辺でボートに亀裂が入ったり、破損する原因となります。ボートに過大な出力のエンジンを搭載することは大怪我や死亡事故、又はボートの損傷を引起す原因になります。

一般事項



水中にいる人々の保護

航走しているとき

水中に立っている人、又は遊泳中の人々にとっては、たとえ低速であっても向かってくるボートの進路を避けるために迅速に行動する事は非常に困難です。人々が水中にいる可能性がある水域でボートイングをする際は、常にスピードを落とし、十分に注意をすることが大切です。

船外機のギアシフトがニュートラル（N）位置にあり、ボートが移動（惰走）している場合でも、プロペラを回転させるのに十分な力があります。このニュートラル（N）でのプロペラの回転により大怪我をすることがあります。

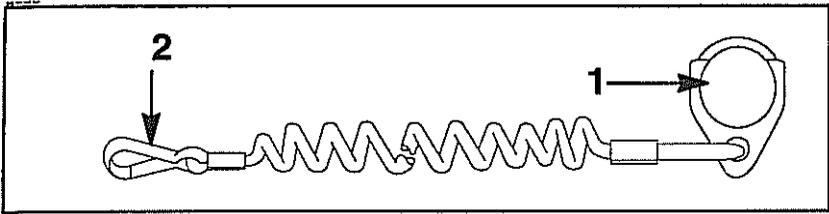
ボートが停止しているとき

ボートの近くで入水をしたリ泳いだりする前に、船外機をニュートラル（N）にシフトし、エンジンを停止します。

警告

ボートの近くに人がいる場合は、エンジンを直ちに停止します。回転中のプロペラや作動中のボートと接触した場合、事故や大怪我をする原因になります。

一般事項



非常停止スイッチ（ランヤードストップスイッチ）

1. 非常停止スイッチの目的は、運転者があやまって船内に倒れたり、船外に投げ出されたりして運転位置から離れた際に、エンジンを非常停止させることです。チラーハンドルモデルといくつかのリモートコントロールには、非常停止スイッチが装備されています。このスイッチはアクセサリとして取付けることもでき、その場合はダッシュボードか運転者の身近に取付けます。
2. ランヤードは、一端のエレメントをスイッチに差込み、他端の金属スナップを操縦者に取付けて引伸ばしたとき、長さが1.2~1.5m（4~5ft）になるコードです。それが障害物とランヤードがもつれないようにするために、自然長をできるだけ短くするコイル状になっています。また、操縦者が運転席付近を動き回る場合、偶然の作動による事故を防ぐために、伸びた状態ができるだけ長くなるように作られています。より短いランヤードを望まれる場合はランヤードとクリップを使って操縦者の手首、又は脚にランヤードを巻付ける、又はランヤードに簡単な結び目を作る事によって調整できます。

このスイッチの取付け、使用、又は不使用を選択する前に、次ページの安全に関する重要情報をよくお読みください。

一般事項

安全に関する重要情報

非常停止スイッチの目的は、運転者があやまって船内に倒れたり、船外に投げ出されたりして運転位置から離れた際に、エンジンを非常停止させることです。例えば、操縦者が水中に落ちたり、あやまって船内に倒れたりした時などで、特に両サイドが低いバスポート、ハイパフォーマンスボート、チラーハンドルで操縦する軽量で舵の敏感な釣り船などで起こりがちです。またはプレーニング時にシートの上に座ったり、立ったまま運転したり、ステアリングホイールのグリップを失ったり、或いはチラーハンドルが急旋回した場合、又は飲酒運転、無謀運転などをした時に起こりやすくなります。

エンジンを停止しても、航走当時の速度やハンドルの操作具合によっては、惰性によりボートはまだかなり進み、その航路にいる人を傷つける事があります。他の乗員も正しい始動、及び操作手順を習得し、緊急の場合（操縦者があやまって船外に投げ出された場合等）には、船外機、及びボートを運転できるようにしておくことをお勧めします。

警告
操縦者があやまって船外に投げ出された場合、航走中のボートにより身体を傷つける危険があります。その場合はボートを非常停止させることでその危険を最小限に防ぐことができます。そのため、他端は金属スナップに正確に取付けられていることを確認します。

一般事項

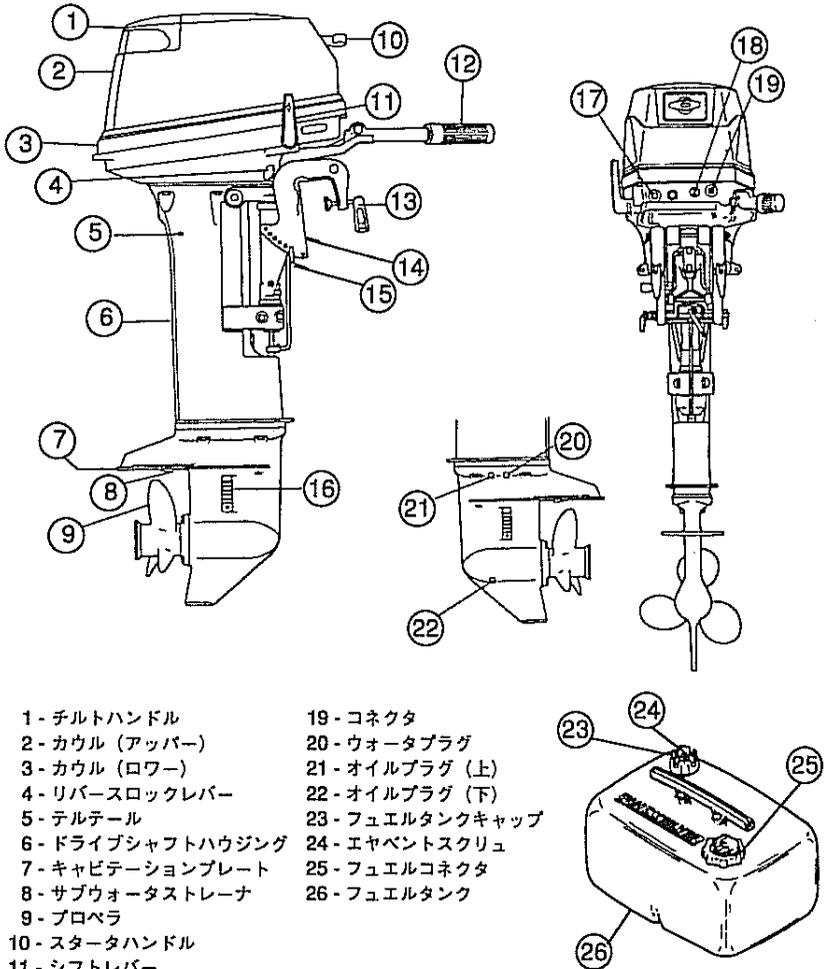
非常停止スイッチの偶発的な作動

スイッチの偶発的な作動、又は不注意な操作によってもエンジンが停止します。その結果、次のような事態が発生します。

1. 非常停止によりバランスを失い、乗員が船首から水中に転落する。(船首に座席のあるポートに多く、乗員が船首から水中に転落し、ギヤケース、又はプロペラとの接触で怪我をする。)
2. 推進力を失い、荒海や強い流れ、又は強い風の水域では進路を失う。
3. 着岸の際はコントロールできなくなる。

警告
非常停止スイッチによる偶発的、突発的な非常停止による大怪我、又は死亡事故は絶対に避けなければいけません。操縦者は、操縦席を離れる際は、

各部の名称



- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 - チルトハンドル | 19 - コネクタ |
| 2 - カウル (アッパー) | 20 - ウォータプラグ |
| 3 - カウル (ロワー) | 21 - オイルプラグ (上) |
| 4 - リバースロックレバー | 22 - オイルプラグ (下) |
| 5 - テルテール | 23 - フュエルタンクキャップ |
| 6 - ドライブシャフトハウジング | 24 - エヤベントスクリュー |
| 7 - キャビテーションプレート | 25 - フュエルコネクタ |
| 8 - サブウォータストレーナ | 26 - フュエルタンク |
| 9 - プロペラ | |
| 10 - スタータハンドル | |
| 11 - シフトレバー | |
| 12 - スロットルグリップ | |
| 13 - クランプスクリュー | |
| 14 - スターンブラケット | |
| 15 - スラストロッド | |
| 16 - ウォータストレーナ | |
| 17 - ストップスイッチ | |
| 18 - チョークノブ | |

仕様諸元

モデル	Seapro 18
全長 (mm)	869
全幅 (mm)	345
全高 (mm)	S : 1,067 L : 1,194
船外機トランサム高さ (mm)	S : 435 L : 562
重量 (kg)	S : 41 L : 42
最高出力 (kW)	13.2
スロットル全開回転数範囲 (RPM)	5,200~5,800
気筒数	2
総排気量 (cc)	294
ボア×ストローク (mm)	60×52
排気システム	スルーハブエキゾースト
潤滑システム	混合ガソリン
冷却システム	水冷式
スターティングシステム	リコイルハンドスタータ
イグニッションシステム	フライホイールマグネットC.Dイグニッション
スパークプラグ	NGK : B7HS-10 CHAMPION : L82C
スパークプラグギャップ (mm)	1.0
チルト段数	6
ガソリン/オイル混合比	50 : 1
推奨オイル	クイックシルバーNMMA/BIA認定 2サイクル船外機オイルTCW-3
フュエルタンク容量 (L)	25
ギヤ比	13 : 24

取付け

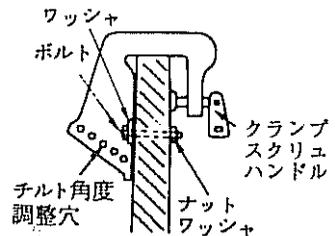
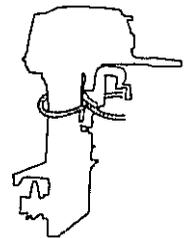
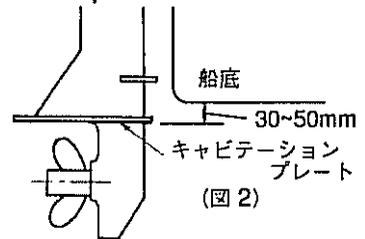
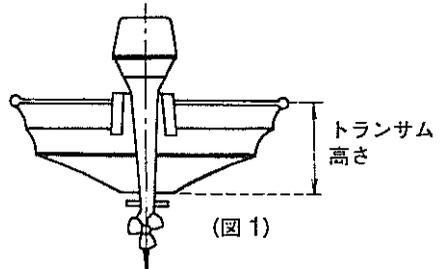
船外機の取付け

警告
ボートのオーバーパワーは操縦が不安定になり、転覆等の危険があります。船外機出力に適合するボートに取付けます。

1. 取付け位置：船幅の中央に取付けます。(図1)
2. 取付け高さ：船体に取り付けた時、キャビテーションプレートと船底との間隔が30~50mmになるように取付けます。(図2)
3. 取付け位置が決まったら、クランプスクリュハンドルをしっかりと締付けます。さらに船体と船外機をロープで結ぶ事をお勧めします。(図3)

注：ボルト、ナット、ワッシャ、ロープは付属されていません。ボルト、ナット、ワッシャは8mm用で2セット用意してください。オプションで用意されています。

注意
船外機の取付けが不完全な場合、船外機を水中に落とす恐れがあります。クランプスクリュは確実に締付けます。また、定期的に増し締めを行います。



フュエルとオイル

フュエル

ガソリンにオイルを混合します。

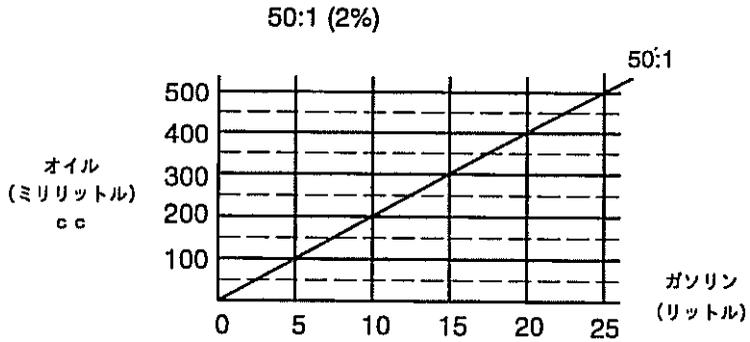
燃料	レギュラーガソリン
オイル	クイックシルバーNMMA/B I A認定 2サイクル船外機オイルTCW-3
混合比	50 : 1 (慣らし運転時は20 : 1)

慣らし運転手順

時間	慣らし運転手順	備考
0～10分	トローリング、又はアイドリング	最低速で航走
10分～1時間	スロットル開度 1/2 以下で約 3.000RPM	
1～2時間	スロットル開度 3/4 以下で約 4.000RPM	10分に1回は全開可
2～10時間	スロットル開度 3/4 で約 4.000RPM	短時間の全開可
10時間～	通常運転	

フュエルとオイル

ガソリン／オイルの混合比



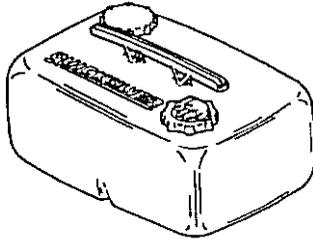
混合手順

約半分のガソリンと同時に、燃料タンクの中に混合すべきオイルの全量を入れます。それらが完全に混合されるまでよく振ります。残りのガソリンを加え、容器をよく振ります。

フュエルとオイル

ポータブルフュエルタンクの取扱いについて

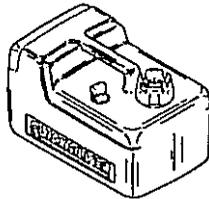
マーキュリー船外機には、純正のクイックシルバーフュエルタンクが2種類用意されています。該当するフュエルタンクをご確認の上、次ページの警告・注意事項をよく読んで遵守してください。



① 25リットル

上図タンクの特徴：

- ・ タンクキャップにラチェット機構はありません。
- ・ タンクキャップのベントスクリュを緩めると通気します。



② 12リットル

上図タンクの特徴：

- ・ タンクキャップにラチェット機構はありません。
- ・ タンクキャップのベントスクリュを緩めると通気します。

フュエルとオイル

警告

ガソリンは引火しやすく、火災の危険があります。ガソリンのある付近では絶対に火気を使用してはいけません。

- a. フュエルタンクに燃料を供給する際は：
 - ・ エンジンを停止します。
 - ・ 風通しのよい場所で行います。
 - ・ 燃料をこぼしてはいけません。こぼれたガソリンは直ちに拭き取ります。
- b. 保管／格納時は：
 - ・ タンク内の燃料を空にします。

注意

全ページ①のフュエルタンクでは、ホースがワンタッチで取外しできます。ガソリンが漏れることがあるので、持ち運びの際は、必ずホースをフュエルタンクから外します。さらに：

- ・ ①②のフュエルタンクのタンクキャップのベントスクリューをいっぱいまで締め込みます。

注意

ガソリンは膨張し、漏れることがあるので、入れすぎてはいけません。

- ・ ①のフュエルタンクには、最大ガソリンレベル（SAFE FILL LEVEL）の線がマークされています。
- ・ タンクキャップはいっぱいまで締め込みます。

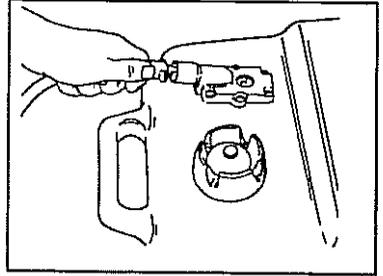
注意

フュエルタンクが移動して損傷しないように、船内ではタンクを固定します。

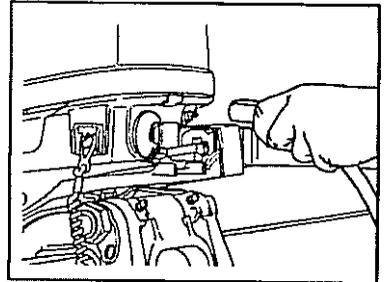
運転

始動前の手順

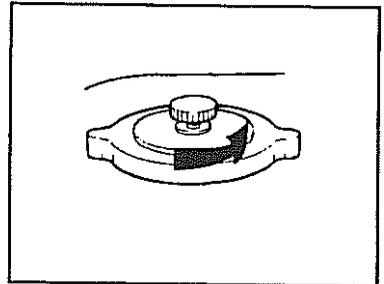
フューエルホースをフューエルタンクに接続します。



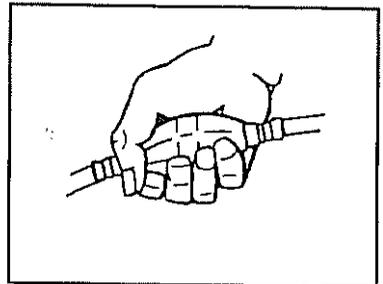
フューエルホースを船外機に接続します。



マニュアルベント付きのフューエルタンクはベントスクリュを開きます。
(ベントスクリュを開かないと船外機が走行後直ぐに停止します。)



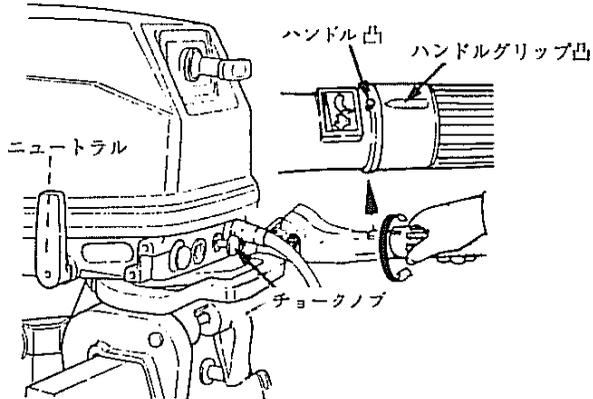
燃料をタンクからキャブレタに送ります。



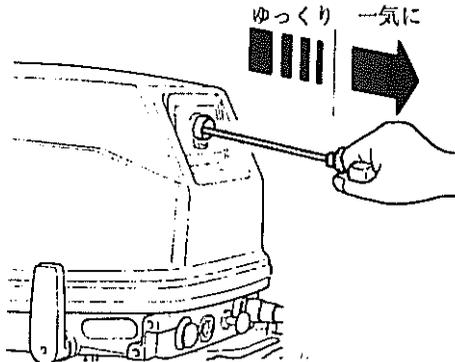
運転

始動手順

シフトレバーのニュートラル（N）を確認します。ハンドグリップ（凸部）をハンドル（凸部）まで回します。チョークノブを手前いっぱいまで引きます。（エンジンが暖まっている時は、チョークノブの操作は必要ありません。）



スターターハンドルを、引掛かりの感じる所までゆっくり引き、重くなった所から一気に力強く引きます。

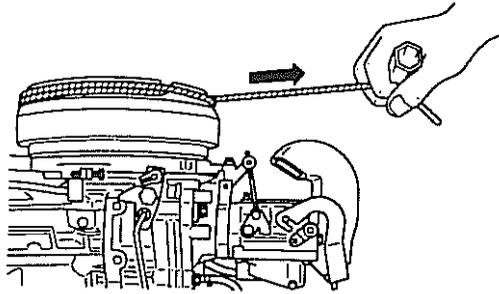


注：チョークノブを引いて始動したときは、エンジンが始動したらチョークノブを戻します。

運転

リコイルスターターが故障した場合

リコイルスターターを外し、数のように直接ロープを巻付けて引っ張ります。グリップは、10mmソケットレンチにロープを巻付けて使用します。



注意

ロープを巻付けて、エンジンを始動する場合、衣服等を巻き込まないように、十分注意します。また、始動者の後方2m以内に人がおらず、物が無いことを確認します。

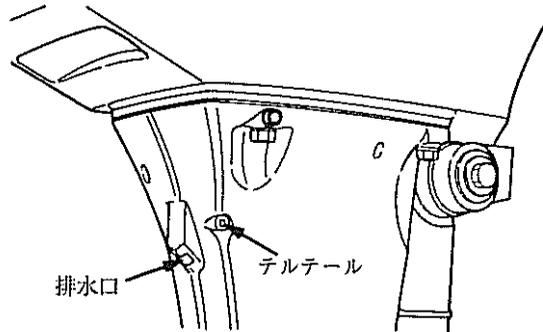
警告

エンジンカウルなしで運転すると、フライホイール等に触れ、怪我をする危険があります。エンジンカウルを外したまま、運転してはいけません。運転したままリコイルスターターを取付けてはいけません。

運転

暖機運転

暖機運転とは、エンジンを始動し、航走に入る前にエンジン各部を暖めること（エンジン始動後低回転にて約3分）で、この間に各部にオイルを行き渡らせます。これを怠ると、船外機の寿命を著しく短くします。暖機運転時、テルテルより冷却水が排出されていることを必ず確認します。



注意

冷却水が排出されないまま運転を続けると、オーバーヒートのためにエンジンが焼きつき、損傷する原因になります。

アイドル回転数

アイドル回転数については、暖機運転の安定した状態で下表の回転数が得られれば、アイドルリングは適正といえます。

モデル	アイドル回転数	
	シフトイン	ニュートラル
Seapro18	800RPM	950RPM

スロットル全開回転数

モデル	スロットル全開回転数
Seapro18	5.200~5.800RPM

運転

シフトレバーの操作

前進、ニュートラル、及び後進のシフト操作は、シフトレバーで行います。

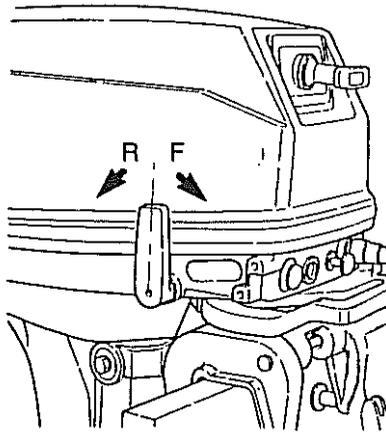
前進（フォワードF）

ハンドルグリップを低速側に戻し、エンジンの回転がアイドリングになったら、シフトレバーを手前（F）側に素早く倒します。

後進（リバースR）

ハンドルグリップを低速側に戻し、エンジンの回転がアイドリングになったら、シフトレバーを後（R）側に素早く倒します。

注：後進する時、速度は十分落として、必要以上にエンジンの回転を上げないでください。



注意

エンジン高回転時のシフト操作は、急加減速による同乗者の転倒や、ギヤ、クラッチ等の損傷の恐れがあります。必ずアイドリングにてシフトします。

運転

チルトアップ／ダウン

シフトレバーをニュートラル（N）位置にし、エンジンを停止させてから、チルトアップ／ダウンの操作を行います。

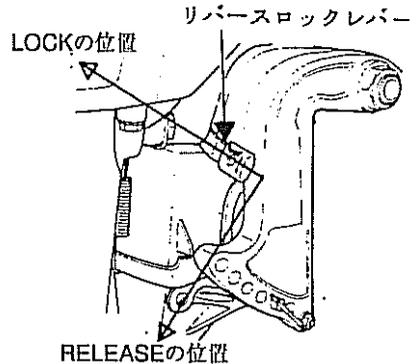
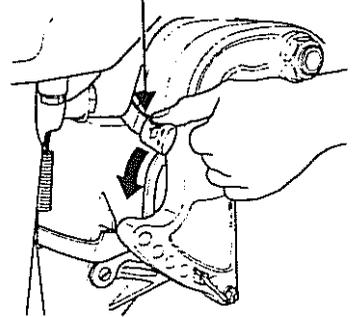
チルトアップ

リバースロックレバーを「RELEASE」側に倒し、チルトアップを行うと自動的にセットされます。

チルトダウン

リバースロックレバーを「LOCK」側に倒し、船外機を少し持ち上げて、船外機を下ろします。（リバースロックは自動的にロックされます。）

リバースロックレバー



注意

リバースロックレバーを指でつかんだままチルト操作すると、指をブラケットに挟みこむ恐れがあります。チルト操作時には、リバースロックレバーを指から離します。

運転

浅瀬航走

エンジンをアイドルにし、シフトレバーをニュートラル（N）にして浅瀬航走操作をします。

注：浅瀬航走する場合、後進時はトローリング回転で行い、必要以上に回転を上げてはいけません。さもないと、船外機が跳ね上がり、危険です。前進時には、プロペラがキャビテーションを発生しない回転で行います。

浅瀬航走位置

リバースロックレバーを「RELEASE」側に倒し、チルトアップしながら浅瀬航走位置にセットして行います。

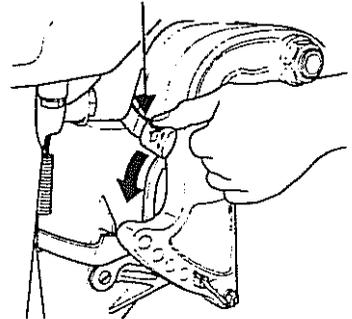
浅瀬航走位置からチルトダウン

リバースロックレバーを「LOCK」側に倒し、船外機を少し持ち上げて、船外機を下ろします。（リバースロックは自動的にロックされます。）

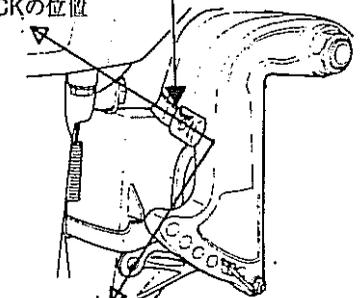
注意

リバースロックレバーを指でつかんだままチルト操作すると、指をブラケットに挟みこむ恐れがあります。チルト操作時には、リバースロックレバーを指から離します。

リバースロックレバー



リバースロックレバー
LOCKの位置



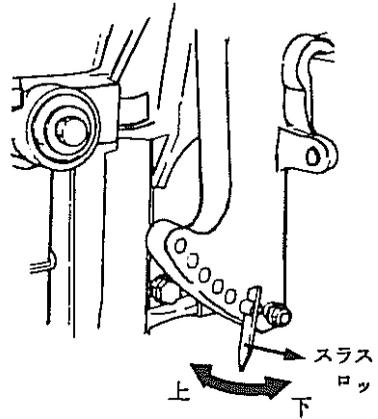
RELEASEの位置

調整

トリム調整

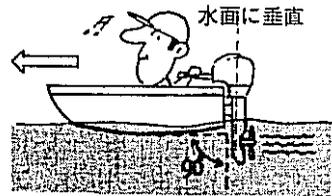
船外機取付け角度

船のトランサム角度、積荷等の条件により、船外機の取付け角度を調整できるようになっています。船が走っている時、船外機のキャビテーションプレートが水面に平行になるような位置を選びます。



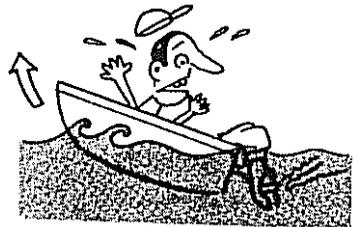
適正トリム

航走中、船は水平でスラストロッドの位置は適正です。



船首が上がりすぎ

航走中、船首が上がり、船首が振られたり叩かれたりします。この場合は、スラストロッドの位置を下方へ移動します。



船首が下がりすぎ

航走中、船首が沈み、波をかぶります。スラストロッドの位置を上方へ移動します。

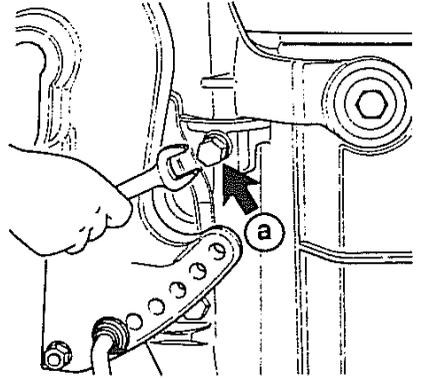


調整

ステアリングの重さ調整

ステアリングの重さの調整は、ステアリングアジャストボルトで調整します。(左に回すと軽くなり、右に回すと重くなります。)

注：ステアリングアジャストボルトは重さの調整用であり、固定用ではありません。締めすぎるとスイベルブラケットが破損する場合があります。



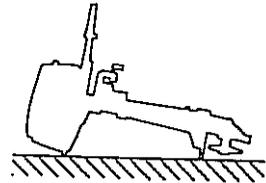
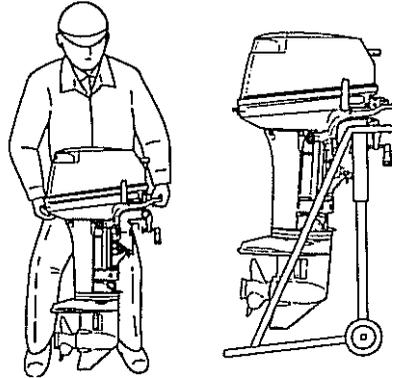
a - ステアリングアジャストボルト

船外機の取外しと運搬

船外機の取外しと運搬

1. エンジンを停止し、フュエルコネクタ、リモコンケーブル、バッテリーケーブル等の配線類を取外します。
2. 船外機を船から取外し、まっすぐ立てた状態でギアケースの水を排出します。
3. 船外機を立てた状態で運搬します。

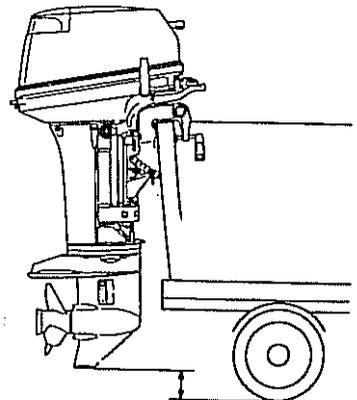
注：横置きにする時は、右図のようにリコイルスターター側を上向きにします。



ボートトレーラーによる船外機の運搬

注意

船外機を取付けた状態でのボート運搬はチルトダウンした状態で行います。チルトアップ状態では運搬時の衝撃によりチルトダウンする恐れがあり、船外機やボートが破損する場合があります。チルトダウンした状態で運搬できない場合は、チルトアップして確実に保持できるツール（トランサムバー等）で固定します。



メンテナンス（日常点検）

各部点検

船外機の使用前、及び使用後に下記の項目の点検、及び処置を行います。

フュエルシステム

点検箇所	処置
1. フュエルタンク内の使用予定量の燃料の有無	1. 補給
2. フュエルゴムパイプ類からの燃料漏れの有無	2. 修正、又は交換
3. タンク・フィルタ等のごみつまり、水たまりの有無	3. 修正、又は交換

エレクトリカルシステム

点検箇所	処置
1. スパークプラグ電極の汚れ、磨耗等の有無 (NGK : B7HS-10、CHAMPION : L82C [ギャップ=1.0mm])	1. 清掃、又は交換
2. ワイヤー類の接続部の緩み、被覆の破損の有無	2. 修正、又は交換
3. ストップスイッチの作動確認	3. 修正、又は交換
4. バッテリー液量	4. 補給

スロットル

点検箇所	処置
1. ハンドルグリップ操作によるキャブレタ、マグネットの 作動、及びリンク関係接続の緩みの有無	1. 修正
2. チョークバルブの作動確認	2. 調整

リコイルスターター

点検箇所	処置
1. ロープの磨耗・損傷の有無	1. 交換
2. ラチェットのはめあい	2. 修理・交換

メンテナンス（日常点検）

クラッチ、プロペラ

点検箇所	処置
1. クラッチレバー操作によるクラッチ噛合いの確認	1. 調整
2. プロペラの損傷、曲がり等の有無	2. 交換
3. スプリットピンの有無	3. 調整・交換
4. 予備のスプリットピンの有無	4. 補給

その他

点検箇所	処置
1. アノードの取付けの緩み	1. 調整
2. アノードの腐食、又は変形の有無	2. 交換
3. 船体取付けのクランプの締付け確認	3. 締付け
4. 補助ロープの取付けの有無	
5. ステアリングの軽重	5. 摺動調整
6. エンジン始動後の冷却水の確認	6. 修理

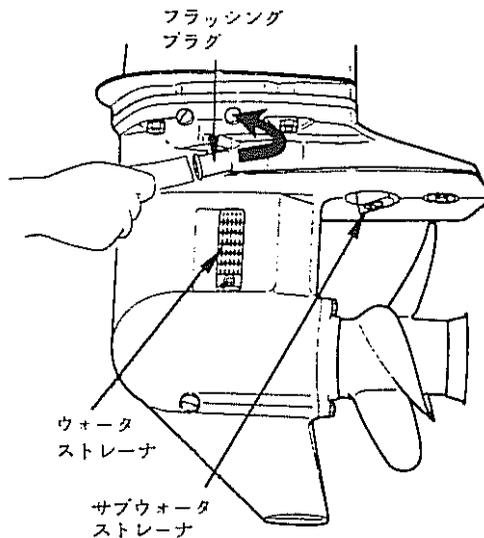
メンテナンス（日常点検）

洗 浄

塩水、又は泥水で運転した後は、真水を使用して外装部、及び冷却通路の塩分や泥を取除きます。長期格納の前には、必ず洗浄してください。

1. 船外機のウォータープラグを外し、付属のフラッシングプラグを取付け、水道にゴムホースを差込み、水を流して洗浄します。（ギアケースにあるウォーターインレットをテープ等で塞いでください。）
2. コントロール（シフト）レバーをニュートラル（N）位置にしてエンジンを始動します。

注：エンジンを低速運転して、洗浄します。



注意

回転しているプロペラに触れると、怪我をする危険があります。陸上運転する場合は、必ずプロペラを取外します。

警告

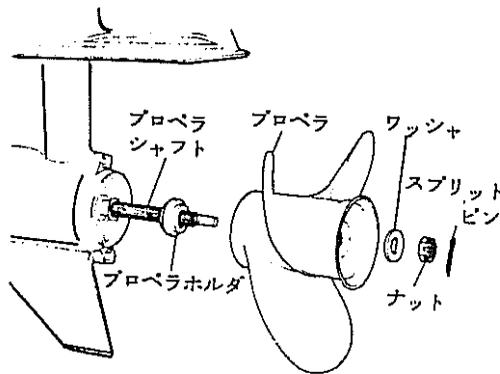
排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、中毒を引起す危険があります。ボートハウス等の締め切った所では、エンジンを始動してはいけません。

メンテナンス（日常点検）

プロペラの交換

プロペラが磨耗したり、曲がったりしていると、十分な性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの不調の原因にもなります。

1. スプリットピンを抜き取り、プロペラナット、及びプロペラワッシャを取外します。
2. プロペラを手前に引き、取外します。
3. 組付け時には、プロペラシャフトにクイックシルバーテフロン入り 2-4-C マリンルブリカント（部品番号 92-802859Q1）を塗布します。



注意

プロペラは鋭利で、不用意に扱うと怪我の恐れがあります。プロペラの交換や異物の除去の際は、下記に注意します。

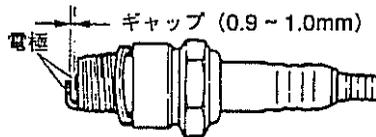
- ・ エンジンを停止し、シフトをニュートラル（N）にします。
- ・ 手袋等をして注意して行います。

メンテナンス（日常点検）

スパークプラグの交換

電極付近が汚れているもの、カーボンが堆積しているものは洗浄し、必要に応じて交換します。また、ギャップが磨耗しているものは調整、又は交換します。

1. エンジンカバーを取外します。
2. ソケットレンチ（21mm）とハンドルを使用して、左回しに軽くショックを与えて、スパークプラグを取外します。



アノードの交換

アノードは、船外機を電食作用（微弱電気による金属腐食）から保護します。ギアケースとマウントブラケットに取付けられているアノードが新品時の寸法に対して2/3以下に消耗したら交換してください。

注：アノードにはグリスや塗料を塗布してはいけません。

アノードの取付けボルトの周囲は、電食作用の強い箇所なので、点検の都度必ずボルトを増し締めします。

メンテナンス（定期点検）

点検チャート

定期点検は販売店にご相談ください。

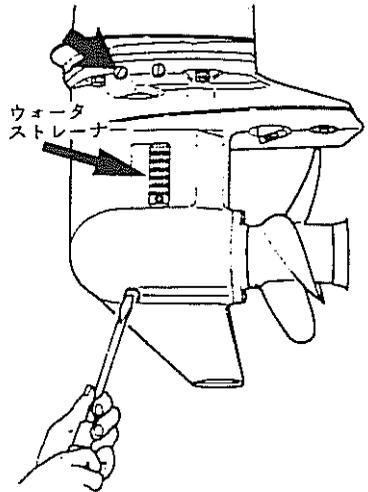
区分	点検項目	点検時間				時間			点検事項
		10時間 未満	30時間 未満	50時間 未満	100時間 未満	1年	1年半	2年	
燃料系統	キヤブレタ	☆○			○	○	○	○	分解掃除及び調整 ☆アイドリング調整
	フェエルフイルタ	○	○	○	○	○	○	○	点検・フイルタ掃除
	バイピング	○	○	○	○	○	○	○	パイプの損傷 パイプ接続部の洩れ
	フェエルトタンク			○	○	○	○	○	掃除
点火系統	スパークプラグ		○		○	○	○	○	間隙、カーボン掃除
	点火時閉		○		○	○	○	○	点火時期調整
始動系統	スタータモータ		○		○	○	○	○	塩付き、パッチチリ、配線
	スタータロープ	○	○	○	○	○	○	○	磨耗
ローワー系統	プロペラ	○	○	○	○	○	○	○	平根の曲り、損傷、磨耗
	ギヤオイル	○換	○	○	○	○換	○	○換	オイル交換又は補充、 浸水のチエック
ボルト、ナット	アノード			○	○	○	○	○	腐蝕
	ボルト、ナット	○	○	○	○	○	○	○	増締め
駆動部、回転部	グリスニップ		○		○	○	○	○	グリス塗布
	グリスニップ		○		○	○	○	○	グリス注入

注：使用時間 300時間において、オーバーホールされることをお勧めします。

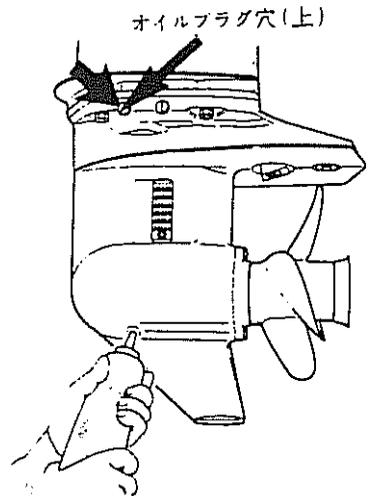
メンテナンス（定期点検）

ギヤオイルの交換

オイルプラグ（上下）を取外して、
オイルを完全に排出します。



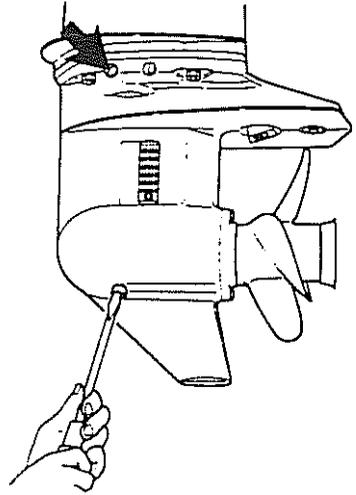
オイルの容器口先をオイルプラグ穴
下側に差込み、絞るようにして注油
し、上側オイルプラグからあふれる
まで給油します。



メンテナンス（定期点検）

上側オイルプラグを締付けてから、
オイル容器を取外し、下側オイルプ
ラグを締付けます。

注：クイックシルバープレミアムギ
ヤオイル（部品番号 92-802844Q02）
を使用します。
オイル容量は約370mlです。

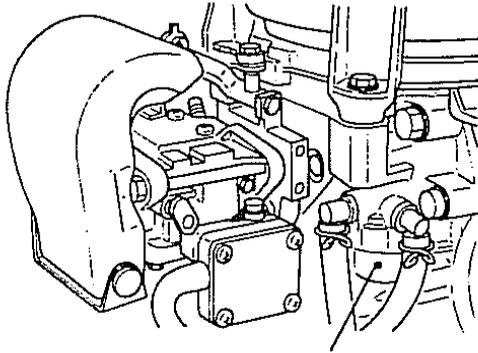


メンテナンス（定期点検）

フィルタの清掃・交換

フュエルフィルタはエンジンに取付けられています。

エンジン側のフィルタの清掃は、フュエルフィルタのキャップを取外して行います。



フュエルフィルタ

メンテナンス（長期格納）

船外機の寿命を長くするためにも、格納前に、販売店にご相談ください。

船外機の格納

1. 冷却システムを洗浄し、完全に水を排出します。外側も清水でよく洗い、乾いた布でよく拭きます。
2. 電装品を乾いた布でよく拭きます。
3. キャブレタ、フュエルタンク、及びフュエルポンプ内の燃料を抜取り、清掃します。
4. スパークプラグを外し、プラグ穴からクイックシルバー 2 サイクル船外機オイル（部品番号 92-858020Q01）を少量注入し、リコイルスターターを数回引きます。
5. ギヤケースのオイルを交換します。
6. プロペラシャフトにクイックシルバーテフロン入り 2-4-C マリンルブリカント（部品番号 92-802859Q1）を塗布します。
7. 各摺動部にスペシャルルブリカント 101（部品番号 92-802865Q02）を塗布し、ボルト、ナット類にアンチコロージョングリス（部品番号 92-802867Q1）を塗布します。
8. 湿気がなく直射日光の当たらない場所に、直立にしておきます。

バッテリー、及びスターターモーターの格納

1. バッテリーケーブルの接続を外します。
2. バッテリー表面を、清水、又はエアで完全に洗浄し、こぼれている希硫酸やゴミ、グリスを落とし、乾いた布でよく拭きます。
3. バッテリーターミナルには、クイックシルバーテフロン入り 2-4-C マリンルブリカント（部品番号 92-802859Q1）を塗布します。
4. 格納する前には、必ず充電します。格納中も 1 ヶ月毎に完全充電を行います。同時に液量も点検します。
5. スターターモーターのスターターシャフト、ピニオンにはコロージョンガード（部品番号 92-802878Q55）をスプレーしておきます。
6. 再使用する時は、完全充電してから使用します。

注意
キャブレタ内の燃料を排出する時は、必ずウエス等で受けて、そのウエスを適切に処分します。

メンテナンス（その他）

水に沈んだ船外機

水の中に落としたエンジンは、早急に分解整備をしなければなりません。この処置を怠ったり、処置が遅れたりすると、エンジンの各部に錆や腐食が起こり、使用不能となります。できるだけ早く水中から引き上げ、その後直ちに下記の応急処置を施します。

1. 清水で、各部の塩分や泥を洗い落とします。
2. スパークプラグを外し、リコイルスターターを数回引いて、エンジン内部の水を排出させます。
3. 排出後、スパークプラグ取付け穴とキャブレタ側から純正エンジンオイルを十分に給油し、さらにリコイルスターターを数回引いて、各部にオイルを行き渡らせます。
4. 以上の処置後に、至急販売店に持込み、オーバーホールを依頼してください。

冷間時における係留

気温が0℃以下になる時期に使用した後、そのまま一時係留しておく時は、冷却水ポンプ内部の水が凍結し、ポンプインペラ等を損傷する場合があります。凍結防止のため、ロワーユニット部を水中に入れておくか、チルトアップした場合は、リコイルスターターを数回引いて、水を完全に排出させます。

トラブルシューティング

故障の場合は下表を参照して点検します。万全を期するために販売店に相談する事をお勧めします。

		推 定 原 因
電 気 系	エンジンが 始動しない	点火時期の調整不良
	エンジンが 始動するが すぐに止まる	ストップスイッチのロックプレートを入れ忘れ。
	エンジン回転 が異常に低い	バッテリ端子のゆるみ、腐蝕。
	エンジン回転 が異常に高い	バッテリの過放電。バッテリ容量不足。
	基礎性が悪い	メインスイッチの故障。
	アイドリング 不調	接続線の断線又はアース、ゆるみ。
そ の 他	エンジンが 過熱する	(冷却水が上がらない又は少ない) ポンプ不良又はゴミ詰まり
	速度が遅い	サーモスタットの作動不良。
	エンジン回転 が異常に低い	アンチベンチレーションプレートの損傷。
	エンジン回転 が異常に高い	適正プロペラを使用していない。
	基礎性が悪い	プロペラの損傷、変形。
	アイドリング 不調	スラストロッド位置が適正でない。
	始動するが すぐに止まる	積荷の位置がアンバランス。
	エンジンが 始動しない	トランサムが高すぎ又は低すぎる。
	エンジンが 始動しない	スロットルリンク機構の調整不良
	エンジンが 始動しない	

付 属 品

種類	品名	数量	サイズ
分解工具	ツールバッグ	1	
	プライヤー	1	
	10×13ソケットレンチ	1	10×13mm
	21ソケットレンチ	1	21mm
	マイナスドライバー	1	
	ロープ	1	
	スパークプラグ	1	NGK : B7HS-10
	スプリットピン	1	
	フュエルタンク	1	
	プライマバルブ	1	
オプション	フラッシングプラグ 部品番号 16841A2	1	

プロペラ一覧表

スロットル全開時のエンジン回転速度範囲内（5.200～5.800RPM）に入るようにプロペラを選定します。

タコメーターがない場合は、販売店にご相談ください。

	軽荷重船	↔	重荷重船
マーク	10		9 8.5
直径×ピッチ (mm)	234×254		234×231 234×224
直径×ピッチ (in)	9.2×9.8		9.2×9.1 9.2×8.8
モデル	オプション		スタンダード オプション

